

随筆の読解

8/8 (月)

p.10
5
p.11

基本

峠の楓の芽吹き

イ

イ

咲きだそうとする葉

1 きしむようにして・たゆたいながら
はじまり

2 用心深いと

入れた↓抜いた

(9) (8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)

エ ウ

解答

○解説○

(1) [1段落]には「芽吹き」という言葉がくり返し出てくる。この「芽吹き」のなかでも、筆者がいちばん好むものの条件を満たす七字の言葉を探す。[1段落]の「楓の類の芽吹き」では、まだ一つ限定する条件が足りない。[5段落]から抜き出す。

(2) 「とたんに」から、筆者のはやる気持ちを読み取る。

(3) 前文に「そこは純林の、一斉の芽吹きになる」とあることを押さえる。

(4) 「手早く咲き、また伸びようとはしない」を手がかりに、前文から「彼ら」にあてはめられる部分を制限字数内で探す。

(5) 「遅滞」とは、遅れとどこおることなので、花や葉がなかなか開かない、なかなか広がらない様子を表した表現を探す。

(6) 直後に「生まれというか」と言い換えていることに着目する。

(7) 「一段落したような」であれば、「落ち着いた」「ほっとした」「緊張が解けた」といった眺め方になるはずなので、「気を入れた」では合わない。

(9) アは[1段落]に「公園にある二、三本の楓でさえ……見ほれる」とあるので誤り。イは[2段落]に「両方とも好きだが、細かくいえば、咲きだそうとする花、……にいちばん心をひかれる」とあるので誤り。[2段落]で「咲きだそうとする花、広がりうとする葉」に「心をひかれる」理由として、「手早く咲き、また伸びようとはしない」ことを挙げているので、ウも誤り。

短歌・俳句の鑑賞

p.18

標準

1

ウ

①

D

②

C

(4) (3) (2) (1)
三(句切れ)
(第二(句))

○解説○

(1) ① D 観覧車かなにかに乗って、高いところから都心を見下ろしている情景を詠んだものと思われる。② C 子どもは絵本を見て、迷子になった象をかわいそうに思っ泣いているのである。

(2) 「細くやさしく」は、「鳴る」にかかっている部分なので、倒置法が用いられている。句切れは、言い切りの形になっている部分に着目する。

解答

現代語訳

南都に齒を抜き取る(ことを仕事にしている)唐人がいた。

ある在家の人で、けちで欲が深く、利益をむさぼって富を殖やすことを何より重んじ、何かにつけて、商売氣ばかりあって、

財産も持っている者が、虫の食った齒を抜き取らせようと思つて、唐人のもとに行つた。齒を一本抜くには、錢二文と定めて

いるのに、(在家人は)「一文で抜いてください。」と言ふ。わずかな金額だから、ただで取つてもよいのだが、(値切ろうとする)

心根が憎らしいので、(唐人は)「絶対に、一文では抜くつもりはない。」と言ふ。かなり長く言い争ううちに、いっこうに抜か

なかつたので、(在家人は)「それならば三文で、齒を二本抜いてください。」言つて、虫も食っていないのに健康な齒を加えて、二本抜かせて、三文与えた。(在家人は)心の中では得をし

たと思つただろうが、悪いところのない齒を失つてしまったのは、大きな損である。これは申すまでもなく、たいへん愚かな

こと、ばかげた行為である。

- (1) A あきない B おおかた C もうす
D おこがましき
- (2) ① イ ② イ ③ ア ④ イ
- (3) さらに三文にて、齒二つ取り給へ
- (4) 虫の食ひたる齒・良き齒(疵なき齒)(順不同)
- (5) ウ